

平成28年度第1回南部町教育協働みらい会議 議事録

開催日時 平成29年1月19日(木)
 午後1時30分～午後3時25分
 開催場所 法勝寺庁舎 3階 会議室
 出席者 陶山町長、松田副町長、井上教育委員、森岡教育委員
 板教育委員、瀬田教育委員 永江教育長
 事務局 唯総務課長、板持教育次長、見世総務・学校教育課長
 書記 総務・学校教育課 渡邊
 欠席委員 なし
 傍聴人 2名(地域住民)

	【開会 午後1時30分】
	【1. 開会】
	【2. 挨拶】
陶山町長	教育は未来を作り出す大きな力を秘めていると考える。その力をいかに生かしていくかは、 今を生きる私たちの仕事と考えている。この会で課題を見つけ議論していきたい。
唯総務課長	町長より施政方針について説明をいただき意見交換に入りたい。
陶山町長	私の政治理念を「つなぐ、かえる、挑戦する」としている。 私たちが知恵を絞りながら未来にむけて南部町の豊かさをしっかりとつないでいく、 そのために何を変えて何を残すのかを考え、常に変化しながら、しかし基本となる ものは変えずに大事にして皆さんと一緒に南部町の未来を作っていきたい。
	【3. 意見交換】
永江教育長	次の2点について意見交換を行いたい。 ①社会教育も含めた子どもが育つ環境整備について ②町の将来を見据えた人材育成について
井上委員	最近の研修でよく耳にする子どもの貧困による教育格差について、給付型の奨学金を 取り入れてほしい。自治体が塾を開催しているところもある。子育てしやすい南部町を 考えてほしい。
陶山町長	貧困の連鎖が続いている。学生の支援はとても大切な事だと考えるが、なかなか 子どもたちにお金が回らない政治的背景がある。 ただ、昔から続いている町の補助金を見直し、一人でも子どもたちを守りたい。
永江教育長	塾については昨年保護者にアンケートを実施した。その結果、課題の1位は塾への送 迎問題、2位が子どもの学習意欲が育たないこと。お金での援助と同時に学習意欲をどう 育てるかをサポートしていきたい。また、同和対策の奨励金の申請は増加傾向にある。
陶山町長	南部町で塾を開いた人が生活できれば、一番いい。若い世代が起業し地域と溶け込んで もらうことを願う。

板委員	小学校高学年から塾に行くようになる。中学生は米子の塾が主流。身近に塾があれば送迎問題が解決する。施政方針に在宅育児世帯の支援とあるが、子育て世代は家計的に苦しいのでインパクトが強いのではないか。
陶山町長	県も4月から在宅支援を考えている。1歳までで自宅で保育する家庭へ物であったりサービスで支援するとのこと。
森岡委員	保育士の奪い合いがおきている。南部町も米子市へ保育士が流出し痛手を負っているが、子育て経験のある町内の方をグループで雇って支援するのも一つの手段。保育士の賃金も安く、なり手がない。
	また、子育て支援と同時に親の教育支援も行政でサポートを願いたい。
	今の親は子育ての大変さを実感せずに、楽な方に向かっている。保育園に預けっぱなしではなく、親として責任をもって子育てをするという教育も行政は支援していく必要がある。
瀬田委員	保護者は保育料も重要だが子どもを安心して預けられる保障を重視している。
陶山町長	子育ては大切な命を預かっているので保育料は本当は高くなければいけない。現状は新卒の保育士が都会に高条件で就職し、地元は少しの賃金で保育士の奪い合いになっている。
永江教育長	アイディアだと思う。都会から保育士がやってくる方法を考える必要がある。
	また、子どもたちの安心安全をしっかりと保障しながら、親も一緒に勉強しようとするカリキュラムは考えられないか。税の使い方は、公平公正にばかりとられず、貧困格差を解消することが大切。
森岡委員	智頭では親子で体験する「森のようちえん」をしている。南部町も家庭教育のカリキュラムを取り入れた特色のある保育園または幼稚園を作っていくと面白いと思う。
	親子で入園し、親も一緒に勉強、雇用も生まれる。
陶山町長	「森のようちえん」的なものをしたいとの申し出はあるが、まだ「森のようちえん」を卒園した子ども達が小学校、中学校に入ってどうなのかの評価がなされていない。一方、金銭のことなど保護者の教育の重要性は感じている。しかし個を中心とした生活をしている
	現代の親に教育費として税金を使うことについては慎重にならざるを得ない。
森岡委員	南部町の課題として、子育てに関する部署が一本化できないかと考える。連携はしているが、各部署が離れていると話もなかなか進まない。
井上委員	国から縦割りで予算が下りてくるので部署が別々になるのではないか。
陶山町長	鹿野は6年生から中学校の教育をすると聞いたが。
永江教育長	義務教育学校のことだと思うが、文部科学省から3年ほど前に標準規模の学校を示した。
	全国的に子どもの数が少なくなり小規模校が増えてきた。小学校と中学校を統合して一つの小中一貫校とすることで、小学校または中学校の廃校が阻止できる。
陶山町長	中学校統合はどう考えるか。
永江教育長	統合については、行政から進めるところもあれば、地域から声があがり、進んだ例もある。
	平成29年度に教育大綱や教育振興計画を作成予定で、その中で方向性を示していきたい。
	一般的には子どもが減ったから統合との話になるが、統合しても教育の質が良くならないと意味がない。大規模でないと、課題が解決できないか、しっかりと議論をし方向性を示したい。
井上委員	保護者は少人数学級を希望するが、小規模校より合併だというのは矛盾を感じる。

陶山町長	保護者は部活動の人数が少なくなって成り立たない学校で本当にいいのか、という親心から合併の話が出てきているのではないかと。これから20年で0歳から14歳が38%減ると統計で出ている。考えていかなければいけない。
板委員	施政方針でポケットパークの整備と出てきたが、どのようなことか。
陶山町長	従来の公園作りではなく、公園のデザイナーは町が用意をし、若い親が横に繋がって一緒に作り上げるようなイメージを考えている。この力が後には南部町を作っていく起爆剤となればよいと思う。皆が繋がって、集いやすい空間になればよいと思う。振興区単位で作ってはどうか。
永江教育長	集落なら考えられるが、振興区で1つなら、保護者がどれだけの思いをもって作れるか、また管理は誰がするかなど課題が多いと思う。
陶山町長	若い世代の親から集える公園がないとの声を聞く。集落で作った公園は他の集落の者は使いづらいとの声もある。
森岡委員	社会教育施設の話もよく耳にするが、中学生がまんてんホールでいい発表をした。これからの企画に対し、子どもたちの意見も盛り込んだ社会教育施設の建設をしてほしい。
陶山町長	町民の関心が高いので、色々な意見が出ている。この意見をまとめることが重要と考える。
唯総務課長	前町長と方向性は決めたが、詳細についてはこれから検討していく。
永江教育長	早く整理しなければ、タイムリミットに間に合わない。色々な角度からみて具体化していかないといけない。
陶山町長	複合施設の話が出たので社会教育について話していきたい。 地域振興協議会の中に公民館部を作って社会教育をすることについては援助がなされているが、それ以外の社会教育の活動についてはなされていない、この線引きがどうなのか。
永江教育長	行政と地域振興区の連携の中で社会教育の役割を果たして行くことはいいが、ベースに公民館があり社会教育施設の活動が中心となってしまう。 社会教育も時代とともに変化している。以前はつながりを作る仲間作り、本人の生きがい作りが中心で、これにより、地域の活性化に繋がっていた。 今後は学習を通じて、地域の課題を解決していかなければいけない。
陶山町長	公民館の一番の大きな仕事は地域の人材育成だと思う。こういった視点で取り組んでほしい。
井上委員	振興協議会のほうから話があったが、平成30年頃に、公共バスを廃止するとの話があったが、小中学校で通学に利用している。今後公共のバスがなくなるとどのようになるか。
松田副町長	今、検討会を実施している段階。今のところ、朝は大型バスが必要。 昼は利用客が少ないので、デマンド型で走らせる、とのことが12月の検討会で議論され、地元にも話していくよう準備を進めている。
陶山町長	法勝寺を終点として、ここから先、タクシー型にするのか、デマンド型にするのか色々な提案をしていく。いずれにしても利用してもらわなければいけない。 公共交通に付加価値をつけて利用を促進する手立てを考えていかなければならない。
森岡委員	地域からは地域振興区がバスを持っていて、買い物に連れて行って欲しいとの声を聞く。
井上委員	スポネットなんぶの活用について、中学校の先生の多忙感解消に、部活にスポネットの専門的な指導者をいれて、指導していくといったことができないか。

陶山町長	スポネットといえども、運営をしていかなければいけない。良い人材をとりいれて、
	運営ができるよう考えなければいけない。学校の部活動の問題を考えた時に、
	その費用を負担するのは誰なのか、具体的に何か考えているか。
板委員	具体的な協議は出来ていない。人数減少で部活動が成り立たないことに直面している。
	無料の部活動を変えていくことはなかなか難しい。あくまでのフォローで教室での
	支援という方向性だと考える。
永江教育長	スポーツ少年団は、平成30年の春には、スポネットの中のジュニアスポーツクラブのくくりの
	中に移行していく予定で地域の皆さんに指導していただく。次の段階で部活動についても
	学校ごとに一緒にしていく等、地域の指導者と教員が一体となって部活動の
	指導を考えている。また、その先には体育協会も移行したいと考えている。
	スポーツ環境をスポネットさんを核にして再構築していく方向で考えている。
唯総務課長	子育て経験者の子どもの見守りについてであるが、善意で年寄りが見守りたい
	と思っているとのことだった。法律上問題ないが、責任問題が気になる。
森岡委員	後ろに行政がいるのはお年寄りにとっても安心なこと。
	待機児童もいるので賃金を支払って見てもらったかどうか。
永江教育長	昨日4人の園長と話したが、国は通常国会に小中学校のコミュニティ・スクール移行への
	努力義務化を出すことになっているが、この小中学校の変化を見ながら園長も地域の
	人々に保育園を応援していただく取り組みを考えていくのはどうかと話した。
瀬田委員	施政方針にあった小中学校の空調整備をお願いしたい。
	【4. 挨拶(総括)】
永江教育長	陶山町政がスタートして基本方針として「3つのC」の提案があった。
	町長の思いを受け止めながら教育行政をしっかりと進めていかなければならない。
	今進めている教育行政と町長の政策理念とは同じ方向を向いている。
	教育協働みらい会議は昨年からはじめたが、町民の皆さんに何を話し合う会かを
	わかっただけのために会の名称を町長と思いを共有しながら決めた。
	理念も同じ方向を向いているので、協働しながら、町の未来を考え、
	教育の役割をしっかり担っていきたい。
	【5. 閉会】
	午前12時00分